

平成17年12月2日
診療報酬調査専門組織医療技術評価分科会
会長 吉田 英機

今般、中医協基本問題小委員会からの付託を受け、「手術件数とアウトカムの関係に係る調査」について、当分科会において詳細な評価・検証を行ったので、その結果を報告する。

評価・検証結果

「手術件数とアウトカムの関係に係る調査」に係る評価・検証結果の詳細は別紙のとおりであるが、その概要は以下である。

- ・ 本年8月31日の中医協基本問題小委員会への「手術件数とアウトカムの関係に係る調査」結果の報告においては、一部の手術（人工股関節置換術）を除き手術件数と手術成績が相関するとはいえないとされたが、医療技術評価分科会において統一的な統計的解析手法を用いてより詳細な分析を行った結果、人工股関節置換術以外にもいくつかの手術において統計学的な有意差が認められた。
- ・ しかしながら、統計学的な有意差が認められた手術における手術件数の増加に伴う手術成績の改善の程度は僅かであり、手術件数の増加により手術成績が良くなると積極的に解釈することは困難であると考えられた。
- ・ 当該調査においては、肺悪性腫瘍手術を除き、患者の重症度等についてはデータが得られていないことから、手術件数と手術成績の関係を明らかにするためには、患者の重症度等を考慮した調査の実施が必要であると考えられた。
- ・ また、米国等では手術件数とアウトカムの関係について、一定の関係があるとのデータも得られているが、我が国と米国等では、患者の疾病罹患率や重症度割合が異なり、年間に実施される手術件数に格差があり、また手術成績の平均的な水準についても乖離（冠動脈、大動脈バイパス移植術における周術期死亡率について、我が国は米国に比べ極端に低かった）が見られる等状況が異なることから、米国等における調査結果を直ちに我が国に適用することは困難であると考えられた。
- ・ 以上のことから、今後我が国において手術件数と手術成績の関係を明らかにするためには、手術件数と手術成績に関する更なる調査を実施し、手術件数の増加に伴う手術成績の改善の程度について定量的に把握することが必要であると考えられた。